

令和4年度 社会教育事業実績報告書

【社会教育係の推進事業】

1 生涯学習の総合的な推進

○第2次芦屋町教育大綱に基づき生涯学習の推進を目指す。

- ・公民館運営審議会兼社会教育委員会議：2回
- ・生涯学習講座あしや塾の発行：6,900部製作、町内全戸配布（令和5年3月25日（土）配布）

取組への評価・課題

- 生涯学習講座あしや塾への掲載内容の充実を図った。

2 社会教育の総合的な推進

(1) 青少年の健全育成

①「あしやハンズ・オン・キッズ」事業の実施

○町内の小学校4～6年生を対象に年間を通じた体験活動の実施。参加者数22人。

○スタッフにハンズ・オン・キッズ0B、0Gや大学生ボランティアなど延べ48人が参加し、地域の学生との連携を図りながら参加者の指導にあたる。

実績	日程	内容	場所
開講	6月15日（水）	開講式、保護者説明会	町民会館
1回	6月25日（土）	なかよしチャレンジ	町民会館
2回	7月23日（土）	ふれあいスポーツ	町民会館 小体育館、中央公園
3回	8月23日（火）	サマーキャンプ	町民会館、夜須高原 青少年自然の家
4回	9月17日（土）	動物ウォッチング	町民会館 海の中道海浜公園
5回	10月15日（土）	リサイクル	総合体育館
6回	11月13日（日）	出店体験	中央公民館
7回	12月3日（土） ～4日（日）	ウィンターキャンプ	町民会館 玄海の家
8回	1月21日（土）	まとめ研修①&お楽しみ会	町民会館
9回	2月11日（土）	まとめ研修②&アイススケート	町民会館 北九州アイススケートセンター
閉講	3月28日（火）	報告会、閉講式	町民会館

②チャレンジキャンプ事業の実施

- 町内の小学校1～3年生の児童とその保護者を対象に、デイキャンプを実施した。野外クッキング及びたき火体験など日常生活では体験できないプログラムを行った。
- 参加者数：27人（保護者13人・児童14人）
- 日時：令和4年10月8日（土）午前9時～午後1時30分
- 場所：芦屋町総合運動公園 みどりの広場

③佐野市青少年交流事業 中止

- 平成6年度からの継続事業。

④ 青少年問題協議会による事業の実施

- あいさつ運動……………毎月月初めの登校日（学期初めは2日間）に街頭啓発の実施。
- 非行防止夜間巡回……………夜間巡回（12回）
- 環境浄化……………有害図書、有害玩具の立入調査実施や白いポストの維持管理、水禍防止看板等の管理
- 広報啓発……………「すくすく育てあしやっ子」記事の掲載。5回
- 安全パトロール実施……………教育委員会職員が町内へ外出する際に、併せて安全パトロールを実施した。また、不審者発生時に随時実施。※R4年度は計16回実施

⑤ いきいき芦屋っ子育成補助事業、国内外研修派遣事業補助事業

- いきいき芦屋っ子育成補助事業 事業利用者なし
- 国内外研修派遣事業補助事業 事業利用者なし

取組への評価・課題

- ハンズ・オン・キッズ事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、例年よりも参加人数を制限し、宿泊日数を短縮するなど、規模を縮小しての実施であるが、参加者及び保護者のアンケートでは満足度が高かった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、研修生は定員割れの22人であるが、感染症拡大の影響による研修の中止はなく、さまざまな体験活動を行った。引き続き、参加が促進されるよう事業内容の検討、事業の啓発をしていく。
- チャレンジキャンプ事業は、昨年同様日帰りプログラムで実施し、親子で体験活動に参加することで家庭教育力の向上を図った。アンケート結果からも参加者の満足度は高かったため、今後も引き続き実施していく。
- 佐野市青少年交流事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から事業を中止した。また、近年は参加が目標（定員20名）の6割程度のため、魅力を伝えられる効果的な周知や募集方法、募集期間の設定などについて検討する必要がある。
- 青少年問題協議会事業について、折尾警察署等関係機関と連携し情報交換・共有していく。
- 安心・安全なまちづくりの実現のため、町民に対して不審者情報を発信し、町全体の防犯意識が高まるよう努める。

(2) 二十歳のつどいの実施

- 民法改正により令和4年4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、式典の名称を「成人式」から「二十歳のつどい」に変更した。
- 令和5年1月8日（日） 町民会館大ホール
- 対象者181人に対し、参加者109人（町内居住79人、町外30人）

取組への評価・課題

- 令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施しなかった第二部について、飲食物を提供しない形で実施し、参加者と恩師との交流を図ることができた。

(3) 新成人のお祝い実施

- 民法改正により令和4年4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、新成人になることをお祝いし、大人としての自覚を持つことを促すため、町長からのお祝いメッセージカードを贈った。
- 対象者251人にお祝いメッセージカードを送付（18歳121人、19歳130人）

取組への評価・課題

- 成人年齢が引き下がることに伴う注意喚起を示した政府広報チラシを同封することで、新成人としての自覚を促すことができた。
- 令和4年度のみ、19歳になる人も対象とした。令和5年度以降は、18歳になる新成人にのみ送付する。

3 人権・同和教育の推進

(1) 人権講演会の開催

- 芦屋町人権講演会 オンライン開催（令和4年7月1日（金）～31日（日））
※同和問題啓発協調月間行事として開催
演題：スマホ時代の子どもたちに大人ができること
（テーマ：インターネット等による人権侵害について）
講師：石川 千明 氏
視聴者数：58人

取組への評価・課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集合形式の講演会は行わず、講演内容を事前に録画した動画をオンラインで配信し、福岡県同和問題啓発協調月間に併せて、町民に対して啓発を行うことができた。
- 新型コロナウイルス感染症対策によりオンラインでの配信となり、通常とは異なる形式で実施したため、視聴者数は伸びなかった。次年度以降はコロナ禍以前と同様に通常開催するため、他自治体での取り組みも参考にして講演会の内容を検討するとともに、周知方法の改善を図り、来場者の増加に努める。

(2) 人権まつりの開催

- 第 24 回 芦屋町人権まつり 令和 4 年 12 月 10 日 (土) 午前 10 時～正午 あしや夢リアホール
※人権週間啓発行事として開催
- 人権講演会 映画：「今日も明日も負け犬。」
(テーマ：子どもの人権について)
- 人権啓発パネルの展示、小中学生による人権啓発作品の展示、男女共同参画啓発パネルの展示
- 来場者：135 人

取組への評価・課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、青少年の主張大会、ふれあいイベント、バザーなどは行わず、規模を縮小しての実施であったが、人権講演会での映画上映や啓発パネル及び作品の展示を行い、12 月の人権週間に町民に対して人権啓発を行うことができた。
- 毎年テーマが変わるため、テーマに沿って講演の形式や内容を検討し、より多くの人に人権啓発ができるように努める。また、人権まつりの開催に関する情報をホームページ及び個別受信機などで発信するとともに、町内各学校や区長会への周知を徹底し、人権まつりの来場者数の増加に努める。

(3) 人権カレンダーの製作

- 小中学生の人権作品 (ポスターなど) を掲載した人権啓発カレンダー (A4 版) 6,900 部を製作し、町内全戸配布 (令和 4 年 12 月 25 日 (日) 配布)

取組への評価・課題

- ページ数やレイアウトなど、住民が人権に触れやすい内容を、担当及び芦屋町人権・同和教育研究協議会内で検討していく。

(4) 人権啓発冊子の製作

- 障がいのある人の人権、女性の人権をテーマに啓発冊子 (A4 版 16 ページ) 6,900 部を製作し、町内全戸配布 (令和 5 年 2 月 25 日 (土) 配布)

取組への評価・課題

- 芦屋町人権教育・啓発基本計画の 8 つの分野の中から障がいのある人の人権及び女性の人権をテーマに選出し、特集記事を作成した。また、さまざまな人権課題や、町内で行っている人権啓発活動について紹介し、人権問題の情報提供や人権尊重の教育と啓発に努めた。
- 令和 5 年度以降は第 2 次芦屋町人権教育・啓発基本計画の 9 つの分野からテーマを 2 つ選出し、特集記事を作成する。人権問題について正しい理解を促すことができるよう人権啓発冊子の内容の充実を図り、町内の全戸配布を継続して芦屋町の人権教育・啓発に取り組む。

(5) 街頭啓発の実施

- 福岡県同和问题啓発強調月間 (7 月) 中止
- 人権週間 令和 4 年 11 月 30 日 (水) 町内 2 か所
福岡県同和问题啓発強調月間 (7 月) は代替啓発としてウェットティッシュを町内公共施設に配架した。

取組への評価・課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から7月の街頭啓発は中止したが、町内の公共施設に人権啓発物資を配架するなど工夫して、啓発を実施することができた。
- 人権週間に街頭啓発を行い、人権まつりのPRとともに人権問題に対する意識高揚に努めることができた。

(6) 各種研修会への参加

- 福岡県社会人権・同和教育担当者研修会
- 福岡県市町村社会人権・同和教育担当部課長研修会
- 北九州教育事務所管内人権教育指導者研修会
- 人権啓発研究集会
- 部落解放・人権確立全九州研究集会

取組への評価・課題

- 各研修会において差別の実情や近隣市町村の啓発事業実践事例を学ぶことができた。芦屋町の今後の人権教育・啓発事業の参考となるものを検討し、事業の充実を図っていく。

(7) 芦屋町人権教育・啓発基本計画の推進

- 国の「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」に基づき策定した芦屋町人権教育・啓発基本計画を地域の実情を踏まえ各関係機関と連携を図りながら、推進する。
- 令和4年度で計画期間が終了するため、第2次芦屋町人権教育・啓発基本計画の策定に向け、職員ワーキングチーム会議及び芦屋町人権教育・啓発推進会議を開催し、素案を作成。パブリックコメントを経て、令和5年3月に第2次計画を策定した。
 - ・芦屋町人権教育・啓発推進会議：1回

取組への評価・課題

- パブリックコメントの実施や各種会議での協議・審議を行い、前計画の取り組みと人権を取り巻く状況の大きな変化や国・県の計画を踏まえた「第2次芦屋町人権教育・啓発基本計画」を策定することができた。
- 令和5年度以降は定期的に事務事業調査を実施し、達成状況を把握することで、第2次人権教育・啓発基本計画に基づいた施策の推進に努めていく。

4 男女共同参画社会の推進

- 第2次男女共同参画推進プラン(平成25～令和4年度)に基づき、男女共同参画の推進を図る。
- 令和4年度で計画期間が終了するため、第3次男女共同参画推進プランの策定に向け、職員ワーキングチーム会議及び男女共同参画審議会を開催し、素案を作成。パブリックコメントを経て、令和5年3月に第3次プランを策定した。
 - ・男女共同参画審議会：1回
 - ・職員向け研修を実施し、対象者106人のうち69人が参加した。
 - 演題：公務員のための男女共同参画の基礎知識
 - 講師：福岡県男女共同参画センター「あすばる」センター長 神崎智子 氏

取組への評価・課題

- 各種会議やパブリックコメントにより協議・審議を実施し、これまでに取り組んだプランの成果や課題、社会情勢の変化や国・県の計画を踏まえ、「第3次芦屋町男女共同参画推進プラン」を策定することができた。
- 令和5年度以降は第3次男女共同参画推進プランに基づいた取り組みを実施する。事務事業調査を実施することで達成状況を把握し、施策の推進に努める。

5 社会体育活動の充実

(1) 子どもの体力づくりの推進

種目・大会名等	実施日	実施場所	参加者数
キッズスポーツフェスタ (ニュースポーツ体験など各種スポーツ競技)	令和4年 6月4日(土)	総合運動公園 中央グラウンド	74人

取組への評価・課題

- 例年と開催形態を変更し、実施した。2年ぶりの開催かつ、屋外での開催など、内容を大きく変えたこともあり、競技内での細かな改善点はあったが、比較的スムーズに進めることができた。
- コロナ禍での開催であったため、参加人数が例年に比べ減少していた。参加人数を増やすため、内容の充実を図っていく。

(2) 各種スポーツ教室等の実施

○青少年を対象としたスポーツ教室

教室名	実施日	回数	実施場所	参加者数
水泳教室(体協主催)	中止		山鹿小学校プール	
ジョギング教室 (体協主催)	令和4年 11月7日(月) ～11日(金)	1回	祇園崎運動広場	71人 ※5日間 延べ人数

○その他のスポーツ教室

教室名	実施日	回数	実施場所	参加者数
ポールウォーキング講座	中止			
スロートレーニング講座	中止			

取組への評価・課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ジョギング教室以外のスポーツ教室事業を中止した。
- コロナ禍以前の運営体制を再確認し、確実に実施ができるよう体制を整える必要がある。
- 既存事業に加え、町のニーズに合わせた新たな健康づくり教室の実施に向けて検討していく必要がある。

(3) 体育協会との連携によるスポーツ事業の実施及び活性化

種目・大会名等	実施日	実施場所	参加者数
グラウンドゴルフ大会	中止	中央グラウンド	
ソフトバレーボール大会	中止	総合体育館	
ソフトボール大会	中止	中央グラウンド	
町民体育祭	中止	中央グラウンド	
マラソン大会	中止	海浜公園	
卓球大会	令和4年 10月30日(日)	総合体育館	32人

取組への評価・課題

- 令和4年度からの新規事業として卓球大会を開催したが、ほとんどの事業を新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。
- 体育協会役員の高齢化や、役員のなり手不足などにより、連携を行う上でさまざまな課題点があるが、今後も連携しながら事業を継続していく。

(4) スポーツ指導者の養成及び育成

- 新型コロナウイルス感染症の影響で活動制限はあったものの、可能な限り体育協会と連携し、スポーツ少年団をはじめとした各種スポーツ団体の指導者の育成に努めた。

取組への評価・課題

- 体育協会、スポーツ少年団の他、県等の各担当部局との連携も深め、所属団体に様々な情報の提供を行う。

(5) 障がい者レクスポ大会の実施

- 障がい者の生きがいと健康増進を目的に福祉課や関係団体と連携し開催した。
- 参加者数：50人
- 日時：令和5年3月26日(日) 午前9時～午後0時30分
- 場所：総合体育館(メインアリーナ)

取組への評価・課題

- コロナ禍での開催のため、芦屋町スポーツ推進委員と競技内容について協議を行い、内容を大きく変更し実施した。また、大会関係団体(障がい者福祉施設など)に対し、参加者(競技参加者、ボランティアスタッフ)を募集し、連携を行った。
- 参加者のニーズに合った内容での実施を行うため、競技内容を検討する必要がある。

(6) 社会体育施設の改修及び備品購入

【総合運動公園】

- 総合体育館正面入口の階段手前の段差を解消するため、工事を行った。

○総合運動公園の新たな駐車場の整備を行った。(総合運動公園第4駐車場)

○総合体育館内の券売機が老朽化により故障したため、買い替えた。

【テニスコート】

○トイレの洋式化を行った。

○頻繁に雨漏りが発生していた屋外倉庫の防水工事を行った。

○テニスコート用ネットが老朽化していたため、買い替えた。(2張)

6 ボランティア活動センター事業

(1) 芦屋町ボランティア活動センターの活性化

○登録団体数 25 団体(令和5年3月末現在) 前年度から25 団体減

加入団体数 2 年度：0 団体 3 年度：0 団体 4 年度：3 団体

○登録団体の活動実態の把握と整理のため、各団体にアンケート調査を実施。調査の結果、25 団体が高齢化等による活動の縮小や休止による脱会または未回答となり、登録団体数が減少している。

○個人登録者数 39 人(人財バンク登録含む)

○利用者数の推移(単位：人)

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和2年度	69	55	78	193	109	219	275	188	250	199	150	210	1,995
令和3年度	207	79	126	228	92	55	208	211	228	181	201	356	2,172
令和4年度	186	193	243	212	175	236	231	209	205	210	177	263	2,540

○センター事業

ボランティア人材の発掘・育成のため、ボランティア活動センター登録団体や町民を対象に事業を実施した。

日 程	内 容	場 所	参加者数
9月17日(土)	第1回ワールドカフェ	中央公民館	15人
10月16日(日)	ふうせんバレーボール体験研修	小体育館	25人
11月27日(日)	災害ボランティア体験研修	朝倉市	中止
12月1日(木) ~24日(土)	クラフトマーケット	ボランティア 活動センター	
1月28日(土)	あしやまちマーケット	町民会館	58人
3月25日(土)	第2回ワールドカフェ	町民会館	11人

○子どもたちのボランティア活動

ボランティア活動センターでは、平成24年度より子どもたちのボランティア活動推進に取り組んでいる。子どもたちのボランティア活動は町内の小中学生を対象に「りーどぼらんていあキッズ」として、研修会や実践活動を通じてボランティア活動について学習している。参加者数7人。

実績	日 程	内 容	場 所
1 回	7 月 30 日 (土)	活動結成式	町民会館
2 回	9 月 10 日 (土)	ハーバリウムボトル製作	町民会館
3 回	11 月 19 日 (土)	海岸清掃・ハーバリウムボトル寄贈	芦屋海浜公園 内の海岸
4 回	1 月 28 日 (土)	あしやまちマーケット運営支援	町民会館
5 回	2 月 25 日 (土) 3 月 4 日 (土)	年間活動結果のとりまとめ	ボランティア 活動センター
6 回	3 月 18 日 (土)	年間活動報告会、修了式	町民会館

取組への評価・課題

- ボランティア活動センターは年間を通じて一定の利用が見られる。新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が大きく減少していたが、徐々に回復している。
- どの団体も人材確保や後継者不足といった課題を抱えている。活動団体の周知やボランティア研修会などを実施し、町民にボランティア活動を広め、ボランティア活動を始めるきっかけとなる機会を提供していく。
- 第3次芦屋町ボランティア活動推進計画に基づき、各種事業を推進していく。

7 町民会館運営事業

- 貸館運営のみで、館独自の講座、研修会、イベント企画等は実施していない。
- 543,510 円の使用料収入。10,310 人の利用があった。
- ワイヤレスマイク及び掃除機が老朽化により故障したため、買い替えた。

取組への評価・課題

- 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響による閉館はなかったため、令和2～3年と比べ利用者数及び使用料収入は増加している。
- 施設及び備品の老朽化により突発的に不具合や故障が発生しており、その都度修繕及び備品を購入している。計画的に施設の整備及び備品の交換が行えるよう、施設管理者や管理人による日々の点検や業務委託による定期点検を実施し、施設の維持管理に努める。

【公民館・文化系の推進事業】

1 公民館活動の活性化

(1) 公民館活動

①中央公民館講座「あしや塾」

開催日	講座名	講師	参加者
4月23日(土)	茶の湯釜鑑賞会～ものづくりの目～	八木孝弘(芦屋鋳物師) 新郷英弘(芦屋釜の里学芸員)	14人
5月21日(土)	男女でサンカク、意識をカイカク、社会をヘンカク	神崎智子(男女共同参画センター「あすばる」センター長)	20人
6月18日(土)	幕末維新史再発見Ⅰ～開国と桜田門外の変～	一坂太郎(萩博物館特別学芸員)	30人
7月24日(日)	幕末維新史再発見Ⅱ～尊王攘夷の嵐～	一坂太郎(萩博物館特別学芸員)	28人
8月21日(日)	芦屋で鋳物を楽しもう!	樋口陽介(芦屋鋳物師)	10人
8月28日(日)	芦屋で鋳物を楽しもう!	樋口陽介(芦屋鋳物師)	10人
9月14日(水)	健康情報のウソ、ホント	小野村健太郎(おのむら医院院長)	22人
10月15日(土)	筑前の名族、麻生一族興亡史～最後の山鹿城主・麻生氏の動向～	廣崎篤夫(八幡郷土史会会長 史学博士)	32人
11月19日(土)	今日から変わる色の楽しみ方、選び方～パーソナルカラー活用術～	浅井さち子(心理カラーコンサルタント)	33人
12月4日(日)	初春を彩る苔玉作り	吉岡 学(樹木医)	24人
令和5年 1月22日(日)	アラブはずっと縛れている～「アラビアのロレンス」「ベンハー」から考える～	矢野寛治(映画評論家)	36人
令和5年 2月11日(土)	ふろしき使ってSDGs	金谷 心(環境ミュージアムガイド)	13人
令和5年 3月25日(土)	日本に関する国際法の話Ⅳ	深町公信(熊本大学名誉教授)	21人
期日未定	芦屋基地を見て回ろう	航空自衛隊芦屋基地隊員	中止
12回実施		合計	293人

②各種公民館講座の実施

	講座名	開催時期	参加者	回数	延人数
中央公民館	スマホ入門講座	9月27日(火)～ 10月25日(火)	16人	5回	74人
	スマホ・タブレット活用講座	11月1日(火)～ 12月6日(火)	15人	10回	144人
芦屋東公民館	小筆教室	11月20日(日)	13人		
	フラワーアレンジメント講座	12月25日(日)	11人		
山鹿公民館	多肉植物を寄せ植えたミニチュアガーデン作り	11月30日(水)	10人		

③学校サポーター制度（平成23年9月発足）

○延べ22人の参加

【芦屋小】小学校敷地内除草・花植え作業

（実施日・参加者数）6月7日（火）8人、10月14日（金）6人、3月8日（水）8人

【山鹿小】1～3年生授業支援

（実施日・参加者数）令和5年1月25日（水）2人、1月27日（金）2人、2月7日（火）5人

※芦屋東小は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度の活動を休止した。

○芦屋小学校（21人登録）、山鹿小学校（13人登録）、芦屋東小学校（9人登録）

※芦屋中学校は特定のサポーターがいないため、必要に応じて3小学校の登録者へ活動を要請する。

④地区公民館長指導育成事業

○福岡県公民館連合会が主催する福岡県公民館実践交流会に参加した。

日時：令和5年1月26日（木）午後1時～4時

会場：宗像ユリックス

参加者：地区公民館長2人と中央・芦屋東・山鹿の各公民館長及び担当係長・係員が参加

※芦屋町単独での地区公民館長研修は実施できなかった。

⑤同好会の育成、文化協会の支援事業

○芦屋町文化協会が主催する「あしや文化祭」と「ふれあい文化講演」の各事業活動に対し人的支援等を行った。

○文化協会だより（14号）が発行された。

⑥土曜学び合いルームの開催

○5月～3月の土曜日に3小学校区で開催。（開催時間：午前9時～11時）

指導は、大学生や教員などのボランティア及び学校サポーターで対応。

○令和4年度は、全日程を中止した。

取組への評価・課題

●中央公民館講座は、参加者数を制限するなど感染症対策を行いながら開催することができた。

- スマホ入門講座では、国が推進するデジタル社会の実現に向けた重点計画を踏まえ、機器を購入して間もない人を含む初心者を対象に基本操作や閲覧及びLINEなど、デジタルツールとしての利便性と危険性を学ぶ講座を開催した。機能や操作の変更点など日進月歩であるため、受講後も独学が必要となることが考えられる。
- 土曜学び合いルームは、新型コロナウイルス感染症の影響により日程調整が困難となったことや、九州女子大学からボランティア学生の派遣が困難であることから、令和4年度の全日程を中止した。今後は感染症法上の位置づけ変更により、令和5年度から4年ぶりに事業を再開する。
- 学校サポーターの活動について、芦屋小は屋外活動で、除草作業や花植え授業支援を行った。山鹿小は「昔の遊び・生活」などの授業支援を行った。芦屋東小は学校側の意向もあり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和4年度は活動を中止した。
- 学校サポーターの活動が減少し、登録者や参加者が減少傾向にある。

(2) 祖父母学級の開設

○3小学校区毎に開設

○3祖父母学級の合同での開講式、社会見学、閉講式は中止

	芦小校区	芦屋東小校区	山小校区
開催回数	8回	7回	8回
登録者(R4年度)	42人	24人	36人
延べ参加者	49人	87人	52人

取組への評価・課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響はあったが十分な感染症対策を行い事業を実施した。徐々に以前のような活動を学級生たちが自発的に再開したことで、学習意欲の高揚が図れた。
- 全体的に登録者数が減少している。
- 平成30年度より実施している九州女子大学との連携講座「漢字の話」は、学級生に好評なため、引き続き実施できるよう関係各所と連携を取る。

(3) 町民会議、各校区育成会議との連携・活動支援

①児童生徒の安全確保のための活動

- 「みまもり隊」の推進
- 「こども110番のいえ」の推進

折尾警察署とデザインや記載内容について協議継続中となっている。

②あいさつ運動

○各校区育成会議で街頭啓発を実施

毎月月初めの登校日(学期始めは2日間)を統一街頭啓発日と定め、地域の協力のもとあいさつ運動を実施。また、15日についても、町民会議役員が広報車に乗車し、啓発活動を実施している。

③非行防止のための夜間巡回

○長期休暇時を中心に、各区単位で地域の実状に応じて実施

④校区コミュニティー醸成活動

○各校区の特徴に併せて、学校行事への参画やスポーツ行事を実施

- ・ 芦屋小校区：10月14日（金）親子除草作業 6人
令和5年3月8日（水）花いっぱいキャンペーン 8人
- ・ 芦屋東小校区：10月21日（金）除草作業 15人
11月12日（土）東小まつり支援 13人
令和5年3月9日（木）卒業式支援（鉢植え花贈呈） 1人
- ・ 山鹿小校区：5月8日（日）浜運動会支援（交通誘導・見回り） 16人
令和5年3月17日（金）卒業式支援（鉢植え花贈呈） 1人

⑤研修会の開催

○新型コロナウイルス感染症の影響により中止

⑥啓発活動

- 回覧板の発行・・・1回／年
- 広報紙「町民会議だより」の発行

⑦青少年の主張大会

○町大会：新型コロナウイルス感染症の影響により中止

⑧家庭の日啓発

- 小中学生による作文、ポスターの作品募集
応募作品数：作文114点、ポスター169点
- 作文の部：優秀賞1人、奨励賞1人
- ポスターの部：優秀賞1人

取組への評価・課題

- 町民会議、各校区育成会議の活動が活発化していくよう支援していく。
- 「子ども110番のいえ」のデザイン変更に伴い、改めて配布先の実態把握や新規協力者を求める。

2 図書館活動の充実

(1) イベントの実施

①春の図書館まつり

○4月23日（土）～5月8日（日）

子ども読書の日（4月23日（土））にあわせた読書活動推進事業

- ・子ども読書の日特別おはなし会・・・4月24日（日）中央公民館 21会議室 参加者19人
- ・おすすめの本展示……………町内小中学校連携事業

4月23日（土）～5月8日（日）参加者252人

- ・ブックリサイクル……………保存期間切れの雑誌や新聞のリサイクル

4月23日（土）～5月3日（火・祝）参加者163人

②図書館夏フェスタ

○7月2日（土）～8月24日（水）

- ・本の森探検ツアー……………夏休みを迎えた児童・生徒に読書のきっかけづくりとして、貸出冊数に応じたスタンプラリーの実施

パスポート配布枚数 494 枚 達成数 284 枚
達成延べ人数 小・中学生 88 人 未就学児 43 人
大人 153 人 合計 284 人

- ・子ども図書館員……………7月30日(土) 午前9時45分～正午 6人
- ・図書館工作……………8月7日(日) 午後2時～4時 7人

③子ども図書館員

- 図書館の仕事体験を通して子ども達に図書館を身近なものにする。
- 7月30日(土) 小学4年生～6年生の計6人(図書館夏フェスタ事業)
- 11月5日(土) 小学4年生～6年生の計6人(秋の図書館まつり事業)

④秋の図書館まつり

- 10月29日(土)～11月9日(水)実施。読書週間にあわせた読書活動推進事業
 - ・おはなしの絵展示……………町内保育所(園)、幼稚園との連携。(図書館前ロビー)
 - ・おすすめの本展示……………町内小中学校との連携。(図書館多目的室)
 - ・ブックリサイクル ……破損や長期保存の傷み等で貸出が少なくなった除籍本
参加者 174 人
 - ・ハンコ de ポン……………本の貸し出しとクイズを楽しむ 参加者 75 人
 - ・子ども図書館員……………11月5日(土) 午前中実施 参加者 6 人
 - ・ぬいぐるみおとまり会……………令和5年2月4日(土) 午前11時～5日(日) 午後6時
夜の図書館をぬいぐるみに探検してもらう企画。おはなし会と一緒に参加したぬいぐるみを
預かり、翌日の午後6時までに迎えに来てもらう。ぬいぐるみが夜の図書館を探検している
写真をプレゼントする。参加者 5 人

⑤図書館講演会

- 9月25日(日) 午後2時～4時
 - ・まはら三桃(みと)さん(児童文学作家)による講演会とサイン会
「本がくれた5つの幸せ(いいこと)」参加者 47 人

⑥上映会

- 6月11日(土) 大人の上映会
「モリのいる場所」午後1時～3時40分 参加者 19 人
- 令和5年3月5日(日) 子ども向けお楽しみ上映会
「ロイヤルコーギー レックスの大冒険」午後2時～3時30分 参加者 28 人

取組への評価・課題

- 令和3年度は中止になるイベントもあったが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を
講じながら、全てのイベントを実施することができた。さまざまなイベントを実施することで、
図書館への来館や読書活動の推進が図れるため事業を継続する。利用者区分で中学生の利用が少
ない点があり課題である。

(2) 図書館ボランティアとの連携および指導

- ①図書館ボランティアによる定期的な読み聞かせの実施
芦屋町図書館1階 おはなしのへや 各日午前11時～11時30分

- にじの会……………毎月第 2.4 日曜日
- お話ポケット……………偶数月第 2 土曜日
- おはなしトントン……………毎月第 3 土曜日
- 赤ちゃんおはなし会「たち」……………毎月第 1 水曜日

②特別おはなし会の実施

図書館ボランティアと連携し、中央公民館 21 会議室で年 2 回実施

- 子ども読書の日おはなし会…… 4 月 24 日（日）午後 2 時～3 時 参加者 19 人
- クリスマス特別おはなし会…………… 12 月 11 日（日）午前 11 時～正午 参加者 33 人

取組への評価・課題

- 幼児期の読み聞かせの大切さを周知することができた。
- ボランティアの活動意欲が持続するよう、ボランティアと連携し参加者増加のための広報活動に努める必要がある。

(3)「ブックスタート」による読書活動推進と子育て支援

- 健康・こども課と連携し、毎月 1 回の 4 か月児健診の時に、読み聞かせの大切さや絵本の面白さを伝え、子育てを支援する。
- 乳幼児用の絵本 2 冊と保護者用の本、手提げ袋の配布。
- 乳幼児の保護者に向けて「よみきかせの手引き本」の同時配布。
- 配布対象者に図書館の紹介を行い、図書館の利用を促す。
- 本年度は年 12 回実施し、76 組の親子に配布。
(4/27(水)、5/23(月)、6/22(水)、7/25(月)、8/24(水)、9/26(月)、10/26(水)、11/21(月)、12/28(水)、1/23(月)、2/22(水)、3/27(月)に実施)

取組への評価・課題

- 家庭での絵本のよみきかせを始めるきっかけとなり、子育て支援・家庭教育支援につながっている。図書館の利用促進にも効果があり、引き続き関係部署と連携し成長過程でのよみきかせの必要性の周知を図る。

(4) 各小中学校、幼保と連携した読書啓発の推進

①小学校見学受け入れ（図書館利用説明・館内見学・書籍の貸出）

- 芦屋小学校 2 年生 児童 33 人 引率 2 人 6 月 7 日（火）
- 芦屋東小学校 2 年生 児童 35 人 引率 3 人 7 月 6 日（水）
- 山鹿小学校 2 年生 実施なし

②小学校団体貸し出し

- 町内三小学校の全学年の児童数分の書籍を学期に 1 回、学年に応じた内容を選書し貸し出し。特別支援学級については、所属児童の実態、学年を考慮し選書を行った。

③中学校団体貸し出し

- 書籍の貸し出しを中学生に拡充するため、芦屋中学校の文化委員会と連携して 11 月から 1 か月間の貸し出しを実施。文化委員が図書館に来館し、職員の助言を受けながら全クラス 20 冊ずつの選書を行った。

④小学校職場体験の受け入れ

○芦屋東小学校 6 年生 中止

⑤中学校職場体験の受け入れ

○芦屋中学校 2 年生 中止

⑥小中学校児童生徒の「おすすめの本」の展示

○春の図書館まつりと秋の図書館まつりで、児童生徒による「おすすめの本」を展示。

○図書館内に、紹介された本を集めた特集コーナーを設置。

⑦中学 1 年生への「おすすめの本リスト」の配布

○中学校を訪問し、新 1 年生におすすめの本を紹介することで、読書への興味を高め、図書館利用を促進する。 5 月 26 日（木）、27 日（金）

○図書館内に、紹介された本を集めた特集コーナーを設置。

⑧保育所（園）、幼稚園の見学受け入れ（館内見学・作品見学・館内での本の読み聞かせ）

芦屋保育園、芦屋中央幼稚園の園児たちの団体見学を受け入れ、絵本に親しんでもらう。

○芦屋保育園 8 月 19 日（金） 園児 13 人 引率 4 人

11 月 4 日（金） 園児 60 人 引率 6 人

○芦屋中央幼稚園 令和 5 年 2 月 9 日（木） 園児 48 人 引率 5 人

⑨保育所（園）、幼稚園児の「おはなしの絵」の展示

○秋の図書館まつりで、保育所（園）、幼稚園児による「おはなしの絵」を展示。

○図書館内に、紹介された本を集めた特集コーナーを設置。

取組への評価・課題

- 令和 4 年度から中学校の文化委員会と連携した貸し出しが開始できたことにより、課題となっていた中学生への図書館利用の一助となった。引き続き連携した取り組みとして継続する。
- 各学校や保幼と連携することで、芦屋町図書館の利用促進につながっている。今後も図書館資料や機材を活用した活動を継続し、町内全ての小中学校と、さらに多くの保育園、幼稚園との連携を深め、特に小学校高学年や中学生の図書館利用の推進に努める。

(5) 地域との連携

おでかけシニア図書館

○町内高齢者施設 2 か所（まつかぜ荘・松露）への毎月 1～2 回、30 冊ごとの本の貸し出し。

（まつかぜ荘には月に 1 回、松露には月に 2 回の貸し出し）

○リクエストを受けて、施設利用者の希望の本を積極的に貸し出す。

取組への評価・課題

- 図書館に来ることのできない高齢者に、読書の楽しみを広げていくことができている。

(6) 電子図書館システム導入の検討

電子図書館の導入

○電子図書館の導入に関し、遠賀郡内広域共同利用について郡内 4 町で調整会議を行った。

(7) 令和4年度利用統計

○開館日数：285日

○蔵書数 72,681冊（図書のみ）

○登録者数

令和4年度新規登録者数				登録者総数（累計）			
児童	学生	一般	合計	児童	学生	一般	合計
95人	25人	132人	252人	1,006人	822人	7,916人	9,744人

○利用者数（貸出人数）

児童	学生	一般	合計
2,892人	259人	11,655人	14,806人

○貸出冊数

一般書	児童書	絵本	図書合計	雑誌	AV	その他	合計
42,832冊	12,419冊	15,956冊	71,207冊	3,962冊	605	31冊	75,805冊

○広域利用

	岡垣	遠賀	水巻	北九州	中間	その他	合計
利用者	413人	125人	244人	1,392人	38人	30人	2,242人
貸出冊	2,530冊	686冊	851冊	8,188冊	155冊	197冊	12,607冊

○相互貸借

	絵本	児童書	一般	その他	合計
借受冊数	12冊	5冊	252冊	4冊	273冊
貸出冊数	14冊	26冊	272冊	0冊	312冊

取組への評価・課題

- 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策での臨時休館もなく、通常どおり開館できたことで、新規登録者数も回復してきた。今後もより多くの利用を促し、利用者に満足してもらう図書館となるため、図書の選書、館内の本を紹介するコーナーの充実、イベントの検討を行っていく。

3 ギャラリーあしや事業

(1) 年間入館者

○1,961人の来館者があった。

取組への評価・課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響がある中、感染症対策を行いながら特別展や企画展を開催することができ、昨年度よりも来館者数が増加した。
- 企画展や特別展以外の常設展示に力を入れるとともに、町民ギャラリーとしての更なる活用を促進するため、広報活動を工夫する。また、貸館については、円滑な展示会利用ができるよう、利用者支援を行う。

(2) 企画展・特別展の実施

- 「村井ひとみ 個展」〔7月30日(土)～8月28日(日)〕開催日数：30日 来館者：455人
現代社会への風刺をテーマとしたインスタレーション作品(立体・空間演出作品)を展示した。
- 「あしやんなーレ～みんなの美術展～」〔11月19日(土)～12月25日(日)〕
開催日数：37日 来館者：303人
芦屋町内の芸術家・展示希望者を中心に作品を募集し、合同形式の展示会を開催した。
- 「芸術家のたまご展」〔令和5年2月11日(土)～2月26日(日)〕
開催日数：16日 来館者：336人
芦屋町内の小中学校や近隣中学校及び中学校文化連盟などの作品を展示した。

取組への評価・課題

- 「村井ひとみ 個展」は、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、感染症対策を行いながら特別展を開催することができた。マスコミへの案内の結果、取材を受けNHKのニュースで放送が行われた。
- 「あしやんなーレ～みんなの美術展～」は、芦屋町を中心に福岡県内から個人8人・団体5件の出展により、さまざまなジャンルの作品を展示することができた。個人や団体を問わず、合同で展示会を行うことで、各自の作品を発表できる場の提供につなげることができた。
- 「芸術家のたまご展」は、児童・生徒の作品が校外で観覧でき、来館者からは好評であった。
- 常設展では、主に芦屋町にゆかりのある人たちの作品展示を行った。
- 特別展や企画展の広報や周知について、情報発信する手法が現段階で限られてしまい、集客を増やすために出展者のネットワーク利用やメディアに取り上げられるタイミングが重要となっている。

(3) ワークショップの実施

ギャラリーコーディネーターによるワークショップを実施 総参加者数 75人

- ・第1回「ミニアクアリウム講座」・・・5月29日(日)参加者：16人
- ・第2回「親子でクラフトトロッコ講座」・・・7月24日(日)参加者：11人
- ・第3回「旅する顔出し講座」・・・8月20日(土)参加者：16人 ※講師：村井ひとみ氏
- ・第4回「UVレジン講座」・・・9月24日(土)参加者：10人
- ・第5回「ビーズ編み講座」・・・10月30日(日)参加者：8人
- ・第6回「クラフトバンド講座」・・・12月24日(土)参加者：15人
- ・第7回「樹脂粘土チャーム講座」・・・令和5年2月26日(日)参加者：10人

取組への評価・課題

- 講座内容について常に検討を行い、企画展・特別展に関連するテーマや新規講座を取り入れ、新規の参加者増へつなげるよう努力する。
- 子どもの参加者が多いと想定していた講座に大人が参加するなど、ワークショップの年齢層が幅広く広がっている。

【芦屋釜・歴史文化課の推進事業】

1 芦屋町歴史民俗資料館事業（芦屋歴史の里）

（1）年間入館者

- 年間入館者総数：3,527人
- うち有料入館者数：2,967人
- うち無料入館者数：560人（町公用・幼稚園など・障がい者手帳掲示）

取組への評価・課題

- 令和3年度（3,022人）に対し、令和4年度（3,527人）は505人増加した。コロナ禍での自粛ムードが徐々に緩和され、外出の気運が高まったことが影響していると思われる。

（2）特別企画展の実施

- 「源平合戦 モノノフの時代」〔4月29日（金）～9月25日（日）〕入館者1,610人。
 - ・会期中イベント：「ギャラリートーク」・・・（歴史の里学芸員 山田克樹）
- 「芦屋かるた展」〔10月6日（木）～12月25日（日）〕入館者642人。
 - ・会期中イベント：「ギャラリートーク」・・・（歴史の里学芸員 山田克樹）
- 「玉井家・吉田家・杉山家～人の望みと喜びと～」〔令和5年1月11日（水）～5月7日（日）〕入館者1,491人。内、令和4年度は1,002人。
 - ・会期中イベント：「ギャラリートーク」・・・（歴史の里学芸員 山田克樹）

取組への評価・課題

- 令和4年度の特別展入館者数（3,254人）は、令和3年度（2,504人）に比べ750人増加した。「源平合戦モノノフの時代展」では、NHK大河ドラマの内容に合わせ、町内の遺跡を源平合戦関連遺跡として再評価し、郷土史と国史を同一視点で語ることができた。また、玉井家・吉田家・杉山家では新聞社・TV局の反応が良く、SNS等での情報拡散もあり、集客数増加につながった。

（3）小・中学校との連携事業

○子ども達の郷土史理解を促進するため、下記のとおり資料館での受け入れを行った。

7月6日（水）	山鹿小学校	11人
7月12日（火）	山鹿小学校	60人
8月5日（金）	芦屋小学校	10人
9月21日（水）	山鹿小学校	14人
11月9日（水）	山鹿小学校	8人
11月30日（水）	山鹿小学校	37人
令和5年2月21日（火）	芦屋東小学校	39人

取組への評価・課題

- 各小中学校の授業で資料館を活用してもらおうべく、働きかけを行う。

(4) 指定民俗行事の継承、育成

①八朔行事の継承・育成

・八朔の記念写真贈呈……………広報で募集 9人

9月28日(水)に写真の贈呈式を行った。

②はねその継承・育成 (芦屋町はねそ保存会)

はねそ保存会の活動支援、老人会盆踊り大会等への参加支援。

中止 はねそ盆踊り (例年8月16日)

11月6日(日) 木屋瀬おどり

取組への評価・課題

●観光協会の声掛けのお陰もあり、八朔行事を行う家庭が増加している。

●はねそ保存会会員の高齢化が進んでいる。新規会員の加入促進を図るとともに、活動支援を行う。

(5) 歴史探訪ツアーの実施

○11月23日(水)

第1回「住吉神社と博多・鴻臚館」参加者12人

場所：鴻臚館、住吉神社、櫛田神社、博多町屋ふるさと館、東長寺、聖福寺、承天寺、千年門、鉄道公園

○12月17日(土)

第2回「門司港と大連航路」参加者12人

場所：門司電気通信レトロ館、門司港駅遠望、三宜楼、栄小路、栄町銀天街、中央市場、門司市民会館、レトロ地区、海峡プラザ、門司港駅、旧大連航路上屋

○令和5年3月21日(火)

第3回「肥前名護屋城と秀吉の夢」参加者16人

場所：名護屋城博物館、木下延俊陣屋跡、名護屋城址、徳川家康陣屋跡、名護屋港、山里口・広沢寺石段・茶室跡、堀秀治陣屋跡

取組への評価・課題

●応募者が多く、ニーズが高い事業である。令和4年度は、3回とも参加者の評価は高かった。参加者がリピーターで固定化する傾向にあり、機会の均等を図ることが課題である。

(6) 出前講座、講師の派遣等 (学芸員の派遣)

○5月12日(木) 遠賀川物語～古代から中世～

宮若市の図書館友の会

22人

○6月28日(火) 荘園と源平合戦

北九州年長者研修大学校穴生学舎

36人

○7月14日(木) 遠賀川物語～古代から中世～

宮若市の図書館友の会

22人

○7月26日(火) 葦屋浦の戦い

北九州年長者研修大学校穴生学舎

36人

○8月30日(火) 芦屋町内史跡巡り

北九州年長者研修大学校穴生学舎

36人

○9月22日(木) 同和問題に関する芦屋町の芸能文化

北九州教育事務所

18人

○10月8日(土) 歴史散策ウォーク

高須地区まちづくり協議会

54人

○10月22日(土) 芦屋の寺中とその周辺

直方市郷土史会

10人

○12月3日(土) 芦屋役者と大国座

飯塚市歴史資料館

10人

○令和5年1月18日(水) 芦屋の歴史について①

北九州年長者研修大学校穴生学舎

36人

- 令和5年1月25日（水）芦屋の歴史について② 北九州年長者研修大学校穴生学舎 36人
- 令和5年2月16日（木）玉井家・吉田家・杉山家～人の望みと喜びと～北九州文化研究会 18人
- 令和5年3月26日（日）玉井家・吉田家・杉山家～人の望みと喜びと～ 花美坂サロン 18人
- 令和5年3月28日（火）芦屋の古代史について 遠賀ロータリークラブ 20人

取組への評価・課題

- 町の出前講座等の活用を積極的に促し、今後も芦屋の歴史や文化のPRを実施する。

(7) 体験学習等講座の開催

- 5月28日（土）化石探検① 参加者30人 場所：歴史民俗資料館、洞山周辺
- 6月19日（日）郷土史跡めぐり（若松歴史散策）「石炭積み出しと吉田家 花と龍の世界」
参加者10人 場所：弁財天上陸場、旧ごんぞう小屋、石炭会館、旧古河鋳業若松ビル、上野ビル、わかちく資料館、若松恵比寿神社、吉田磯吉邸跡、明治町銀天街、安養寺（葦平・玉井家墓所）、火野葦平旧宅、高塔山
- 6月26日（日）八朔わら馬づくり講習会 参加者16人
- 8月6日（土）大珠・勾玉づくり講座 参加者4人
- 9月23日（金）郷土史跡めぐり（直方歴史散策）「炭鋳レトロ」参加者12人
場所：円徳寺、雲心寺、多賀神社、多賀町公園（貝島太助像）、直方谷尾美術館、直方市石炭記念館、直方城址

取組への評価・課題

- 化石探検は多くの申込みがあり、ニーズが高い事業である。引き続き、魅力あるテーマを探し、体験学習の機会を充実させたい。

(8) 資料カードの整理

- 新規寄贈品、寄贈本の整理
- 収蔵庫の整理

取組への評価・課題

- 随時整理を実施しているが、整理が十分でないところもあるので、継続的に取り組む。